

理想科学工業株式会社

本社/〒108-8385 東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル

【お問い合わせ先】 環境活動推進部

Tel. 029-889-2527 Fax. 029-889-2530

E-mail: info@riso.co.jp URL: http://www.riso.co.jp/

Sustainability Report  
環境経営報告書  
2017



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。  
本冊子は、環境への影響に配慮したライソインキとFSC®認証紙を使用しています。





## 利便性向上と 環境負荷の低減 推進しています。

平素は当社事業にご理解・ご支援を賜りありがとうございます。  
「環境経営報告書2017」をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

理想科学は、「美しい健全な環境を次世代に引き継ぐために地球規模での環境保全に貢献する」ことを「理想環境憲章」に掲げ、環境負荷の低減に向けた活動を推進しております。

当社がメーカーとして、製品の開発・生産・販売活動を進めていく過程で、そしてお客様が当社の製品をご活用いただく過程でなんらかの地球資源が消費され、またさまざまな廃棄物が生まれています。このことを十分に認識して、利便性の向上と環境負荷の低減を両立できるような製品やサービスを創出し、お客様にご提供し続けることがわれわれの責務であると考えております。

さて、当社は平成28(2016)年には、高速カラープリンターオフィス「FWシリーズ」「GDシリーズ」を発売しました。上位機種である「オフィスGDシリーズ」では毎分160枚の高速カラー印刷を実現し、世界最速の印刷スピードを更新しました。高速性と経済性を兼ね備え、カラー印刷を気軽にご利用いただけることで、オフィスワークに大きな革新をもたらします。

## を両立する製品・サービスの開発を

これら製品の環境性能については、開発段階からハードウェアとサプライ(インク)のシステムとして環境負荷低減に取り組み、省資源化等の環境配慮設計を推進してきました。揮発性有機化合物の放散基準、エネルギー効率など厳しいエコマーク基準をクリアした成果が認められ、公益財団法人日本環境協会が主催する「エコマークアワード2016」において、「オフィスFWシリーズ」が「プロダクト・オブ・ザ・イヤー」を受賞することができました。

今後もお客様の利便性向上と環境負荷の低減を両立した製品・サービスの開発を推進してまいります。本報告書は、当社の環境への取り組みやお客様をはじめとするステークホルダーの皆様との社会的なつながり、そして健全な企業活動の礎であるコンプライアンスやコーポレートガバナンスについて説明しています。ぜひご一読いただければ幸いです。

2017年7月  
代表取締役社長

羽山 明

### CONTENTS

ごあいさつ	1	環境性能も両立した 世界に類のない製品を開発	3	Close Up 1 「世界最速」を生み出す 理想科学独自のテクノロジー	5	環境マネジメント 環境への取り組み	9	社会とのかかわり	13	海外での取り組み	16	マネジメント	17	理想科学について	19
				Close Up 2 より安全で快適な オフィス環境のために	7									編集方針	21
														第三者審査報告書	22

# 環境性能も両立した 世界に類のない製品を開発

理想科学は、製品性能と環境性能を高い次元で両立した製品を開発し、世界中のお客様の業務効率化と省エネ推進をサポートすることを通じて持続可能な社会づくりに貢献しています。



エコマークアワード2016  
プロダクト・オブ・ザ・イヤー  
受賞

## 製品性能と環境性能を両立する継続的な努力が高く評価

～エコマークアワード2016「受賞コメント」より～

- ★ インクカートリッジ、機器本体の回収・リサイクル等を推進
- ★ 国際エネルギースタープログラムの標準消費電力量の基準を大幅にクリア
- ★ 高速機では困難とされた揮発性有機化合物の放散に関する基準値をクリア
- ★ 相互認証制度を活用したドイツ・ブルーエンジェル認定1号機
- ★ 後に発売された上位機種<sup>※1</sup>では世界最速レベルの印刷速度を更新<sup>※2</sup>

※1 「オルフィスGD9630/9631」

※2 2016年9月現在販売の枚葉(カット紙)オフィス用カラープリンターにおいて(当社調べ)



開発担当者によるプレゼンテーションの様子



記念撮影に応じる公益財団法人日本環境協会の森嶋昭夫代表理事と羽山明社長(写真左)



蛍光管再生ガラスでつくられたトロフィー

# ORPHIS FW



Close Up 1 「世界最速」を生み出す理想科学独自のテクノロジー P.5

Close Up 2 より安全で快適なオフィス環境のために P.7

# 「世界最速」を生み出す理想科学独自のテクノロジー

理想科学は、高速・多枚数、経済性を徹底的に追求し、カラープリントで毎分160枚という世界最速の記録を実現。高速カラープリントが新しい可能性を生み出します。

## 圧倒的なプリントスピードで生産性を向上

エコマークアワードを受賞した「オルフィスFW」に続く新シリーズの最上位機種「オルフィスGD9630」はカラープリント毎分160枚を実現し、自らの世界最速記録を更新しました。

一般的な事務用カラープリンター毎分40枚に比べ、4倍のスピードでプリントにかかる時間を大幅に短縮。見やすく色分けされたプレゼン資料や会議資料、帳票、教材づくりなど、幅広いカラープリントの用途を短時間で処理し、業務の生産性を向上することができます。



「オルフィスGD9630」

世界最速を更新  
160枚/分

## 世界最速を体感



ショールーム、デモバス、貸し出しで

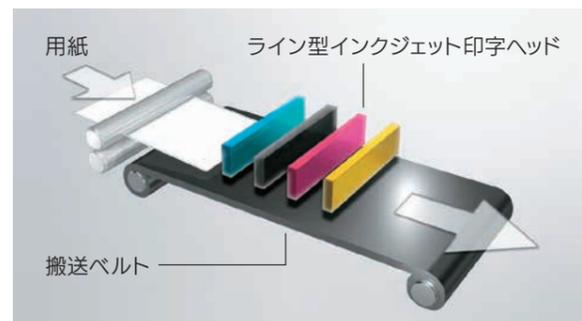


## カラープリントの常識を変えた理想科学の高速印刷技術

「カラープリントは時間がかかりコストも高い」という常識を打ち破り、ビジネスでのカラープリントを身近にした高速カラープリンター「オルフィス」には、理想科学独自の技術とノウハウが集約されています。化学、機械、電気、ソフトウェアにわたる広範囲な技術を総合して、産業用の高速プリンターと同様の高速性をオフィスで使用できるコンパクトサイズで実現。プリンター本体からインクまで自社開発にこだわる理想科学だからこそ達成できた高速印刷技術です。

## ライン型インクジェット印字ヘッド

A3ワイド用紙の短辺を一度に印字できる、ライン型インクジェット印字ヘッドを4色または5色並列に配置。高速に搬送される用紙めがけて正確にインク滴を着弾していきます。印字ヘッドの下を停止することなく通過すると用紙一面のカラー印字が完了しています。



## 高速印刷に適した油性インク

一般的なインクジェットプリンターの水性インクは用紙が水分を吸収して波打ちやカールなどの変形が起こりやすく、高速用紙搬送のトラブルにつながります。「オルフィス」では、独自に開発した専用の油性顔料インクを使用。用紙の変形が少なくスムーズな用紙搬送が行えるため、高速印刷に適しています。

また、油性顔料インクは速乾性と表面定着度が高く用紙の裏側ヘインクが抜けにくいいため、高速両面プリントが可能です。



波打ちなど変形しやすい水性インク



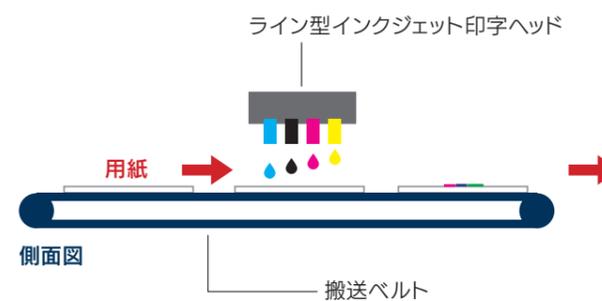
用紙変形の少ない油性インク

## 精密な高速搬送機構

精密な用紙搬送機構により、印刷ズレの少ない高速印刷を実現しています。搬送ベルトの速度と印字ヘッドの吐出動作を同期させるためにインク滴吐出タイミングを補正し、高速印刷時の印刷ムラを軽減しています。また、印字ヘッドの下に次々に高速で送られる用紙を正確に搬送するため、多数のセンサーを使用し用紙搬送の遅れや進みを検知し即時補正します。

多数のセンサーによる搬送状況の把握とタイミングの自動調整、紙に負荷をかけない搬送制御、紙送り間隔の短縮など、さまざまな技術で高速印刷を実現しています。

## ストレートパス方式



## 高速インクジェットプリンターのエコロジー

高速カラープリンター「オルフィス」は、インクジェット方式の採用により、画像形成に必要なヒーターを使用しないため、最大消費電力1,200W以下で稼働し、AC100Vの一般電源で使用可能です。「オルフィスGD」では毎分160枚の最高速プリントにおいても、TEC値\*は9.6kWh/週以下で、一枚あたり0.15Wh以下に抑えられています。

インクジェット方式では、一般的なページプリンターで必要なヒーターのウォームアップが不要で、スリープ状態（節電機能）から素早く復帰し印刷が可能のため、印刷していない時は節電機能を活用することでトータルの消費電力を低く抑えることができます。

高速カラープリンター「オルフィス」なら、印刷指示が複数重なっても次々と短時間で印刷処理を行い、印刷待ちの渋滞が気になりません。業務効率が向上し、残業等の間接的なエネルギー消費の低減にもつながります。

印刷スピードの問題から複数のプリンターで行っていた作業を高速カラープリンター1つに集約することで、プリンターの台数を削減してオフィスのスペースや維持管理費、さらに待機消費電力も抑えることができます。

\*TEC値 「Typical Electricity Consumption」の略で、経済産業省の「国際エネルギースタープログラム」に適合するための基準となる値。

## User's Comment

### 高速カラープリントによって印刷渋滞が解消され、業務改善とコスト削減を実現

業務で毎日大量のプリントを行っていますが、従来の複合機では印刷渋滞が発生し、印刷のために残業になることもしばしばでした。これを解決するため「オルフィスFW5230」のデモ機を設置してもらったのですが、すぐに手放せなくなりました。大量プリントでもあっという間に終了し残業もなくなりました。カラー印刷も低コストで、トータル50%のコスト削減につながりました。

株式会社For needs  
経営企画本部 マネジャー  
染谷 真史 様



# より安全で快適な オフィス環境のために

「オルフィス」本体の部品材料やインクの原材料に加え製造工程の全てを徹底的に見直し、健康に影響を及ぼすおそれのある化学物質の放散を抑えています。

## 安全で快適なオフィス環境をめざして

塗料や印刷インク、接着剤、洗浄剤などには多種多様な揮発性有機化合物（VOC）が使用されています。これは、VOCが揮発しやすい（すぐに乾燥する）、油になじみやすい（溶剤に利用しやすい、油を落としやすい）という特性を持っているからです。

VOCにはスチレン、ベンゼンなど人の健康に影響を及ぼすような物質が存在します。また、人の健康に影響を及ぼすことが確認できていない多種のVOCが存在します。人の健康被害を予防し、オフィスを安全で快適な環境にするためにはTVOCの放散を抑えることが重要となります。

## 高速プリンターゆえのハードルの高さ

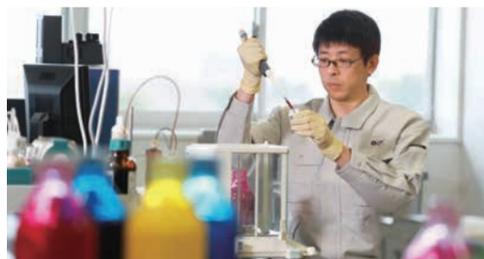
世の中の環境意識が高まる中、2014年4月にTVOCの放散に関するエコマーク取得基準が強化されました。プリンター本体と印刷物から放散する一定時間のTVOCを測定するため、短時間に多くの印刷物を出力する高速プリンターはこの基準に適合することが困難でした。

## 開発・製造部門が総力を上げ TVOCの放散低減に取り組む

印刷時に放散されるTVOCの低減に向け、理想科学では開発・製造部門が総力を上げ個々のVOCの発生源を解析・特定し、対策を講ずることとしました。

## 〈対策①〉新「オルフィス」インクの開発

インクについて全ての原材料の選定から見直し、VOCの放散が少ない原材料を選定し、インク製造方法に新技術を導入することで、インクからのVOCの放散をより少なくすることに成功しました。



TVOC放散の少ないインクを開発

## VOCとは

「Volatile Organic Compounds(揮発性有機化合物)」の略。常温で空气中に揮発する有機化合物の総称で、建材や塗料・接着剤などから空气中に放散される特定のVOCが光化学スモッグやシックハウス症候群など人や環境に悪影響を及ぼす原因のひとつとされており、VOCの安全性に対し各国で規制やガイドラインが強化されています。多種類存在するVOC全体の総量を、TVOC「Total VOC(総揮発性有機化合物)」といいます。



## 〈対策②〉「オルフィス」に使用する部品の素材を見直し

多くの部品には素材を柔らかくするためや、成形性を良くするためなどの理由で有機溶剤を使用することがあります。また、インクの原材料を見直したことでそのインクの特性に合わせた部品の素材が必要になります。数千点におよぶ部品一つひとつの素材に含まれる原材料を確認し、VOCを低減しインク特性とも適合する素材を選定しました。



部品の例

## 〈対策③〉製造工程でも発生源を特定し対処

部品の加工や洗浄など製造工程では、多種多様な化学物質が使用されています。化学物質にはVOCの発生源となるものが存在します。当社の製造工程だけでなく部品メーカーの製造工程で使用する化学物質を確認し、発生源となる化学物質の使用を中止するなどの対応を行いました。

## 研究と対策の積み重ねで TVOCの放散を大幅に抑えることに成功

これらの徹底した対策が完了するまでには18か月におよぶ長い期間が必要でした。部品メーカーをも巻き込む全社を上げた取り組みの結果、エコマーク認定のTVOCの放散に関する基準値を大幅にクリアしました。

### オルフィスFW



エコマーク商品  
省エネ・3R設計  
15155054  
理想科学工業株式会社

本体



エコマーク商品  
3R設計、有害物質の削減  
15142009/15142010  
理想科学工業株式会社

インク

このほか、3R(リデュース、リユース、リサイクル)・消費電力や騒音などのエコマーク認定基準に適合し、「オルフィスFWシリーズ」は新基準のエコマーク認定を取得しました。

## 世界に通用する「ブルーエンジェル」を取得

「オルフィスFWシリーズ」はエコマークと相互認証協定を締結しているドイツのブルーエンジェル認定も取得しました。ブルーエンジェルは世界で初めて導入されたエコラベル制度で、EU諸国で認知度が高く、世界の環境ラベルにも強い影響力があります。

「オルフィス」の環境性能は、WHOやドイツをはじめとする各国の規制・指針を勘案し、TVOCの放散に関する基準や資源循環に関する規定など世界に通用する基準に適合しています。

これからも世界中のオフィスに環境負荷の低い製品を届け、地球規模での環境負荷の低減に貢献していきます。



ブルーエンジェル  
認定ロゴ

取得機種:  
「ComColor  
FW5230/5231」  
(オルフィスFWの欧州仕様)

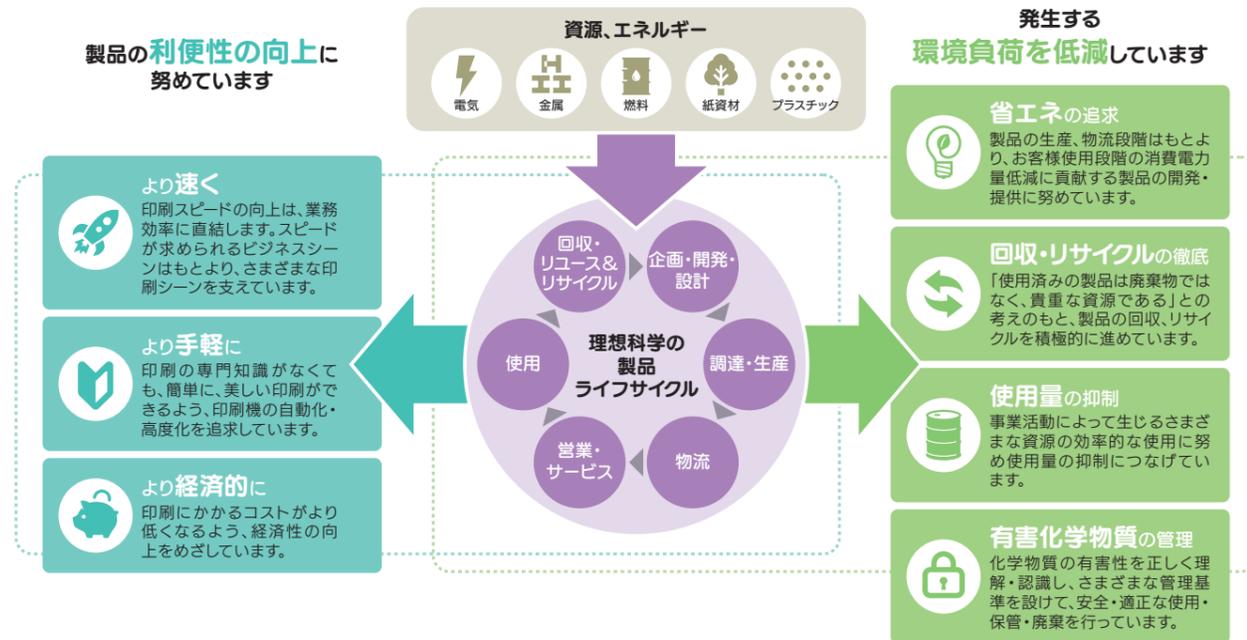
### Supplier's Comment

## 安全で快適な オフィス環境をつくる

「オルフィス」はハードの特性に合った当社純正インクを使用することでプリントスピードやプリント品質の向上など、最大限の性能を発揮することはもちろん、室内へのTVOCの放散にも配慮し、安全で快適なオフィス環境を追求しています。

## 環境への取り組み姿勢

製品の「利便性向上」と「環境負荷低減」の両立を追求しています。



## 理想科学の環境方針

環境への取り組み姿勢を明確に示した「理想環境憲章」ならびに「環境行動指針」を制定し、理想科学は、全社を挙げて環境保全活動を推進しています。

### 環境憲章

理想科学工業株式会社は、優れた製品の開発を通して社会に貢献することを基本理念とし、加えて地球社会の一員であることを深く認識し、美しい健全な環境を次世代に引き継ぐために地球的規模での環境保全に貢献するように努めます。

### 環境行動指針

#### 1. 環境に配慮した製品の開発

製品の開発・設計の段階から生産、流通、使用、リサイクル、廃棄などの各段階を考慮し、トータルでの環境負荷を低減するよう方針を策定し、実行する。

#### 2. 省資源、省エネルギー

事業活動によって生じる環境への影響を調査、検討し、環境負荷を低減するよう、省資源、省エネルギーに努める。

#### 3. 地域の環境保全

国、地方自治体などの環境規制等を遵守することにとどまらず、事故等の緊急事態に備えて汚染の可能性を検討し、

予防する。

#### 4. グローバルな視野での対応

海外事業活動および製品輸出に際しては、現地の環境に与える影響に配慮し、現地社会の要請に応えられるよう努める。

#### 5. 継続的な改善

環境管理の組織、制度を整備し、環境目的・環境目標を設定して、継続的な改善活動を実施する。

#### 6. 環境教育と情報公開

環境について全従業員が見識を深めることができるよう、当環境憲章および行動指針を基に適切な教育や広報活動をおこなうと同時に、環境活動状況を積極的に一般公開し、社会との連携により一層の環境負荷の低減に努める。

平成10年8月28日制定

平成19年4月1日改定

代表取締役社長 羽山 明

## 2020年度 全社環境取り組みの数値目標※の進捗

企業の成長と温暖化対策の両立をめざす産業界を挙げての取り組みである「電機・電子業界 低炭素社会実行計画」を踏まえ、2020年度「全社環境取り組みの数値目標」の達成に向けて単年度ごとに数値目標を設定し、環境負荷低減活動の進捗を管理しています。

※2016年度まで使用していた「全社環境目的・目標」は、省エネ法を遵守することと低炭素社会実行計画を達成するための数値目標であり、2017年度からは「全社環境取り組みの数値目標」と名称変更します。

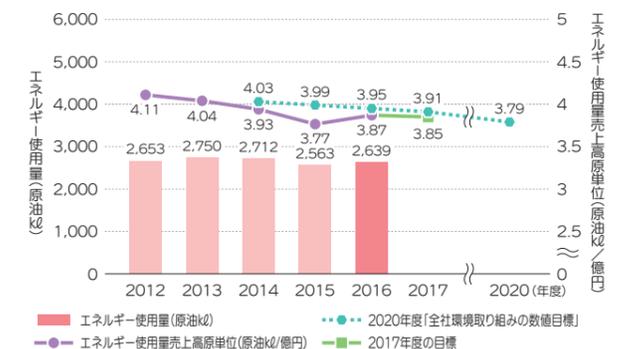
### ◆ エネルギー使用量(原油換算)の削減

#### 国内全体で

>> 2020年度においてエネルギー使用量単体売上高原単位を3.79原油kl/億円以下にする

(2014年度から2020年度までのエネルギー原単位改善率を年平均1%と定める。達成の判断は、基準年度(2012年度)比で2020年度に7.73%以上改善する)

#### 全社(国内)エネルギー使用量および売上高原単位の推移



集計範囲: 理想科学単体国内全事業所のエネルギー使用量(委託物流量、社有車燃料使用量は除く)。売上高は単体売上高

### ◆ CO<sub>2</sub>排出量の削減

#### 国内全体で

>> 2020年度においてCO<sub>2</sub>排出量単体売上高原単位を12.10t-CO<sub>2</sub>/億円以下にする

(エネルギー使用量単体売上高原単位の3.79原油kl/億円をCO<sub>2</sub>排出量単体売上高原単位に換算した数値に、物流と社有車のCO<sub>2</sub>排出量を含めた値)

#### 全社(国内)CO<sub>2</sub>排出量および売上高原単位の推移



集計範囲: 国内全事業所のエネルギー使用量、社有車の燃料使用量、物流部所管の製品・サービスの物流委託量とそれに伴うCO<sub>2</sub>排出量。売上高は単体売上高

### 2016年度実績

(詳細はデータブックを参照:図表1)



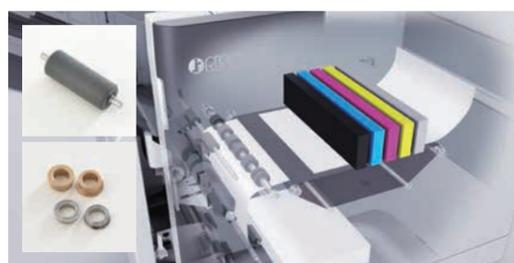
高効率タイプのボイラーへ更新

2016年度も省電力に重点をおいた取り組みを継続しました。空調機や照明をエネルギー効率の高い設備へ更新するなど積極的な投資を行い効果をあげました。2016年度のエネルギー使用量単体売上高原単位の実績3.87原油kl/億円は新製品の立ち上げ等でエネルギー使用量が増加したため未達成でした。しかし、2020年度「全社環境取り組みの数値目標」の達成に向けての数値目標は達成しました。2015年度と比較するとエネルギー使用量単体売上高原単位で3%、CO<sub>2</sub>排出量単体売上高原単位で1%増加しました。今後は適宜PDCAを繰り返し、上方修正できるよう環境負荷の低減に向けて活動していきます。

## 開発・生産拠点で

### 耐久性とメンテナンス性の向上

当社は、製品の耐用年数を伸ばすことで環境負荷の低減に努めています。「オフィスGDシリーズ」は、耐摩耗性に優れたダイヤモンドコートローラーや軸受部ボールベアリングの採用により、従来機の600万ページから1,000万ページに耐久性を向上しました。部品交換などのメンテナンス性も向上し、長期間にわたる高速・大量印刷に応えます。



「オフィスGDシリーズ」の高耐久部品の一部

### リサイクル素材の使用

当社は、製品の環境性能を高めるため、資源循環に取り組み、再生プラスチックの使用にも取り組んでいます。

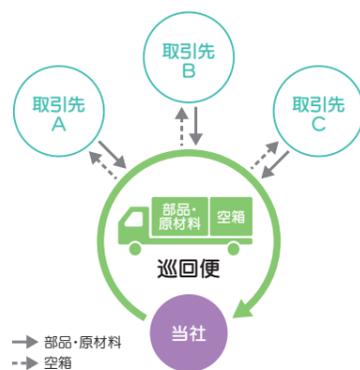


「オフィスGDシリーズ」に使用されている再生プラスチック部品の一部

## 調達・物流で

### 海外工場のミルクラン(巡回集荷) [タイ、中国]

納入業者が個々に工場へ材料や部品を納入する方式から、当社が1台のトラックにより複数の仕入れ先を巡回して集荷・納品するミルクラン方式を、日本と同様に海外の製造工場でも採用しています。これにより、積載効率が高まり輸送コストが低減するだけでなく、輸送トラックが排出するCO<sub>2</sub>の低減にもつながら、環境負荷の低減に役立ちます。



巡回集荷のしくみ

### リターナブルラックの運用を拡大

製品の出荷には、運搬後に回収し繰り返し使えるリターナブルラックを使用し、段ボールや発泡スチロールなどの使用量を削減しています。2016年度に発売した「オフィスFW・GDシリーズ」ではリターナブルラックでの運送を基本とし、リターナブルラックの運用を拡大しました。

〈詳細はデータブックを参照：図表15〉

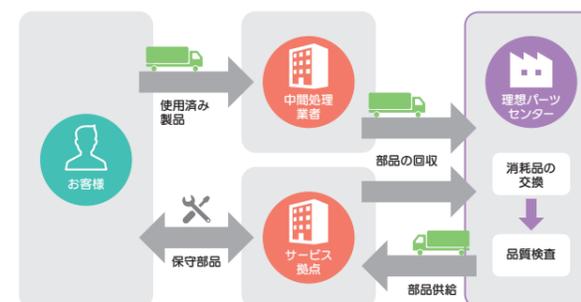


「オフィスFWシリーズ」のリターナブルラック

## 営業サービス活動で

### 使用済み製品・部品のリユースパーツ化を拡大

使用済みの製品・部品は可能な限り再利用を行っています。部品の一部は回収され「理想パーツセンター」で消耗部品を交換し、品質検査を経て再度市場で利用されています。2016年度は回収した使用済み製品や交換した保守部品などのリユースパーツ化の拡大とその利用促進に積極的に取り組みました。〈詳細はデータブックを参照：図表6、7〉



製品・部品の回収とリユースパーツフロー

### 使用済みインクボトルを回収し、リサイクル

消耗品であるインクボトルの回収・再資源化を積極的に進めています。回収した使用済みインクボトルは粉碎し再生樹脂としてリペレットに加工した後、さまざまなプラスチック製品に成形し、製品の一部として利用されるほか、販促品や運搬用パレットなどで再利用しています。



インクボトルのリサイクルフロー

## 事業所で

### ライトダウンキャンペーンに参加

当社は、環境省が地球温暖化防止の一環として毎年夏に日本全国で実施している「CO<sub>2</sub>削減/ライトダウンキャンペーン」に賛同し、毎年参加しています。2016年度も夏至の6月21日およびクールアース・デーである7月7日の2日間、午後8時から10時までの2時間にわたり、筑波事業所と宇部事業所で一斉消灯を実施しました。



ライトダウンキャンペーンポスター

### クールビズの実施

省エネによる温暖化対策として、電機・電子関係の業界団体が定めた行動指針に則り、毎年夏には、冷房温度を28℃とするとともに軽装での執務を奨励するクールビズを実施しています。

また、当社を訪問されるお取引先にも軽装での来社をお願いするとともに、告知・啓発用のポスターを作成し、社員一人ひとりの参加意識を高めています。



クールビズ告知ポスター

お客様の満足のために

技術コンテストを通して  
CEの技術力・サポート力を向上

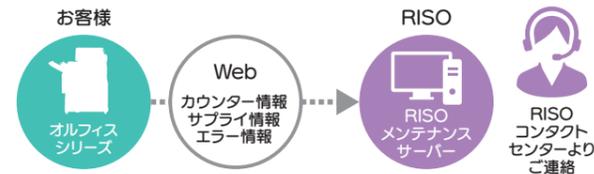
当社では、修理や保守点検に迅速に対応し、より良い印刷環境を提案するカスタマーエンジニア(CE)の専門知識・技術力・顧客対応力の向上を目的に「RISO TECHNICAL CHAMPIONSHIP」を開催。2017年1月の第14回全国大会では1,500名を超える参加者の中から地区予選を勝ち抜いた22名が出場し、筆記・機械のトラブルを解決する実技・スピーチの各試験に挑み、スキルを競い合いました。



実技試験の様子

機器の状態を遠隔から見守り、  
トラブルにも速やかに対応

お客様の「オフィス」のコンディションを当社のメンテナンス用サーバーにインターネットを経由して送信する「RISOリモートエージェント」を通じて、より質の高いメンテナンスを実現しています。また「RISOリモートエージェント」により送信されたメンテナンスコールエラーに対して、RISOコンタクトセンターから電話連絡させていただくことで、速やかにトラブルに対応する「リモートメンテナンスコールサービス」も提供しています。



「RISOリモートエージェント」「リモートメンテナンスコールサービス」の概要

働きがいのある職場環境をめざして

両立支援制度を整備し  
ワークライフバランスを充実

社員一人ひとりの充実が組織の活性につながるという考えのもと、出産や育児、介護等で勤務時間や勤務内容の変更が必要になった場合でも、仕事と生活の両立ができるよう「育児休業」や「介護休暇」など各種制度を整備し、女性・男性社員ともに安心して仕事ができる環境づくりに努めています。

当社は2011年に子育てサポート企業としての認定を受け、次世代育成支援企業認定マーク「くるみん」を取得



次世代育成支援企業認定マーク「くるみん」

して以降、育児休業の取得や有給休暇取得推進のための意識啓発など行動計画を着実に実施。その取り組みが評価され、2013年、2015年と継続して更新取得しています。

2016年度は、育児休業制度利用者が41名(うち男性3名)で延べ3,333日取得しました。

仕事と育児の両立を支援する  
「復職支援セミナー」

育児休業制度を利用し復職を予定する社員を対象に、先輩社員の体験談やアドバイスを通じて復職への不安を払拭してもらうことを目的とした、復職支援セミナーを毎年開催しています。2016年度は復職予定の7名(男性社員1名含む)が参加しました。「復職後がイメージでき、復帰するのが楽しみになった」など仕事復帰への前向きな感想が寄せられました。



復職支援セミナーの様子

COLUMN 世界に広がるサービス&サプライ販売体制

長期にわたり安心して製品を使っていただくためには、ハードウェアの信頼性はもちろん、安定した消耗品の供給と万全のメンテナンス体制があってはじめて可能となります。

当社純正消耗品、推奨部品のご使用と当社認定のカスタマーエンジニアによるメンテナンスサービスによって製品の性能を最大限に機能させると同時に故障を極力抑えることを可能にし、ベストコンディションでお使いいただけます。

カスタマーエンジニアは日本・アメリカ・イギリス・タイに設置した研修センターで技術研修を行い、随時メンテナンス力の向上を図っています。



バンコクトレーニングセンター

COLUMN 女性活躍推進への取り組み

「女性活躍推進法に基づく行動計画」を策定・社内外に周知し、女性の活躍促進に向け取り組みを進めています。

2016年5月には、女性社員を対象にエンカレッジ研修が行われ24名が参加しました。自身のキャリアやビジョンについて考え、自身と周りがいきいきと働き続けられる環境づくりについて積極的な意見交換が行われました。この後、受講者の上司を対象に、管理職として女性社員とのかかわり方やマネジメントスキルを習得する、エンカレッジ研修(管理職編)が実施されました。

また、女性管理職を対象に、先輩社員として女性後輩社員からの課題や悩みの相談支援を担うメンター研修も実施されました。



エンカレッジ研修の様子

地域社会の一員として

オフィシャルスポンサーとして  
鹿島アントラーズを応援

理想科学の製造や開発の中心拠点がある茨城県の鹿嶋市を本拠地とするプロサッカークラブ「鹿島アントラーズ」と、2016年シーズンからクラブオフィシャルスポンサー契約を結び、2017年も更新しています。ホームゲームではつくば駅・カシマスタジアム間の送迎バスの運行支援を行うなど、鹿島アントラーズを応援しています。



バス運行ポスター

中学校での環境学習に協力

2016年11月、川崎市立柞形中学校で開催された「平成28年度エネルギー環境教育ワークショップ」に協力しました。中学1年から3年までの生徒28名が、ガリ版印刷とリソグラフ印刷で新聞づくりを行いながら、環境に優しい印刷について学びました。



ガリ版印刷を体験する中学生たち

COLUMN 理想教育財団※、陸前高田市の地区コミュニティに「リソグラフ」を寄贈

東日本大震災で、人口の約7%が犠牲になった岩手県陸前高田市。理想教育財団は2016年6月、同市内に11を数えるコミュニティ推進協議会のひとつ、小友地区コミュニティ推進協議会に「リソグラフ」を寄贈しました。協議会主催の文化祭や同協議会が企画・運営する生涯学習講座の資料づくりなどに活用され、地域の復興とコミュニティの再構築に役立てられています。

※学校や地域社会での教育・学習活動に関する調査・研究および助成を行う公益財団。1984年に「理想科学工業教育財団」として設立され、2011年4月に内閣府の認定を受けて公益財団法人に移行。



陸前高田市小友地区コミュニティ推進協議会の皆さんからの感謝状を受ける理想教育財団の酒井顧問(右端)

地域に根差した社会貢献活動を展開

● 箱根駅伝の号外印刷に「オルフィス」が活躍

2017年1月、第93回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競争)において、レース結果を速報する号外の印刷に、理想科学の高速プリンター「オルフィス」が活用されました。大会を共催する読売新聞社と協力し、現地で記事を編集し、クルマに搭載された「オルフィス」で即座に大量印刷。往路・復路それぞれのゴール付近で観戦していた多くの方々に配布しました。



ゴール付近で配布された号外

● 義援金の寄付を通じた地域貢献

2016年4月の熊本地震災害に対して、被災した当社製品の無償部品交換を実施するとともに、100万円の義援金を日本赤十字社を通じて寄付しました。

海外においても、各地のお客様や地域社会とのつながりを大切にし、地球環境保全や教育・文化に貢献するさまざまな活動を展開しています。



ドイツ

「オルフィスFWシリーズ」が  
ドイツ環境ラベル  
ブルーエンジェル認定を取得

2016年3月に発売した「オルフィスFWシリーズ」は、環境ラベルのエコマーク(日本)とブルーエンジェル(ドイツ)の相互認証協定を活用し、ブルーエンジェル認定を取得しました。「オルフィスFWシリーズ」は、この協定を活用した、初の画像機器(複写機・プリンタ)となりました。



ブルーエンジェル認定のロゴ

取得機種:  
「ComColorFW5230/5231」  
(オルフィスFWの欧州仕様)



アメリカ

環境評価システム「EPEAT®」への  
登録機種を拡大

米国の政府調達要件にも採用されている環境評価システムEPEAT (Electronic Product Environmental Assessment Tool) に対応し、2017年4月現在10機種の登録に拡大しました。環境負荷の低い原材料の使用や設計、回収・リサイクルに至るまでの製品ライフサイクル全般におよぶ環境配慮と環境に関するデータ開示、企業としての環境活動などの項目が評価され、シルバー基準に登録されました。



EPEAT(シルバー)のロゴ

(EPEAT登録機種)  
EZ221U、SF5450、SF5130、SF9450、FW1230、FW5230、FW5231、FW5000、GD9630、GD7330



ドイツ

開発コンセプト機を参考出品

新事業の可能性を追求する取り組みとして、2016年6月にドイツのデュッセルドルフで開催された、世界最大級の印刷総合見本市「drupa2016」に、ロール紙を使った帳票印刷用途向けフルカラーインクジェットプリンター「RISO T1」を開発コンセプト機として参考出品しました。



「RISO T1」



COLUMN

オルフィスで「COP22」を  
サポート

モロッコ

2016年11月にモロッコのマラケシュで開催された第22回国際気候変動枠組条約締約国会議(COP22)に、RISOフランスが協力。2015年にパリで開催された「COP21」での大量印刷の実績と環境性能が高く評価され「COP22」でもオルフィス5台を貸出し、契約、条約関連などの多数の印刷物の出力と保守サポートを行いました。



コーポレートガバナンス／コンプライアンス／リスクマネジメント

コーポレートガバナンス

当社は、監査役による監視・監督のもと、取締役会が業務執行についての重要な意思決定を行うガバナンス体制を採用しています。また、一般株主と利益相反を生じることのない立場(独立役員)の社外取締役を迎え、健全で透明性の高い体制を整備しています。

内部統制システムの整備・評価の実施部門として内部統制部を設置し、「内部監査規程」に基づき、工場、営業拠点および子会社等の会計・業務監査を行っています。

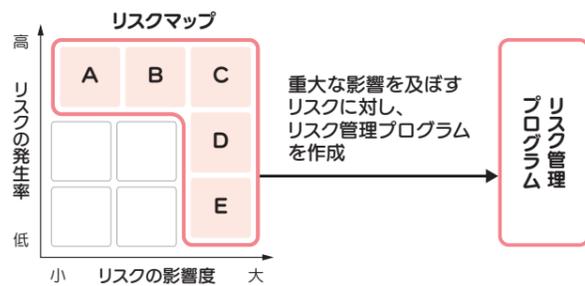
コンプライアンス体制

当社は、コンプライアンスを企業経営の基本とし、法令や社内規程を遵守するとともに、社会倫理や道徳を尊重し、社会の一員であることを自覚した事業活動を行うよう努めています。「リスク・コンプライアンス委員会」を設置し、コンプライアンス教育やリスクマネジメントの継続的な改善・強化に取り組んでいます。また、同委員会は通報者のプライバシーが守られるように配慮しながら、従業員からの相談・報告に対応する内部通報制度の運営など、コンプライアンスやハラスメント対策の実行性を担う役割も果たしています。

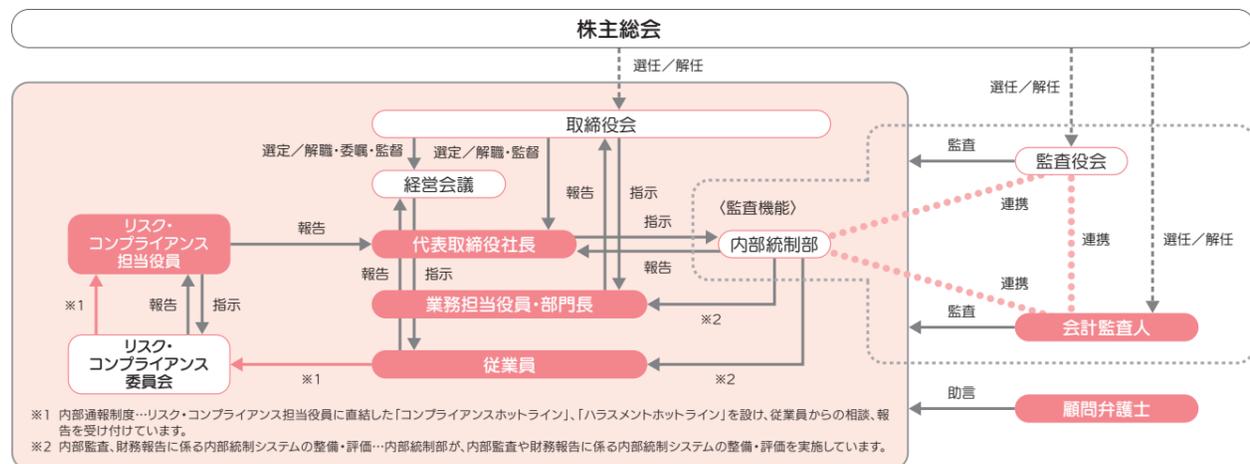
リスクマネジメント体制

当社は、会社法のために基づき「損失の危険の管理に関する規程」を制定しています。重要な業務は、執行に伴うリスク分析や対策の検討をしたうえで、経営会議や取締役会で審議・決定します。また、「リスク・コンプライアンス委員会」では、当社グループを取り巻くさまざまなリスクが発生した場合の影響度などを分析・評価して、「リスクマップ」を作成しています。グループ経営に重大な影響を与えるリスクについては、個別にリスク管理プログラムを策定し実行することで、リスクの低減・回避に努め、統合的なリスク管理と体制整備を推進しています。

リスク管理の概要



コーポレートガバナンス体制図



事業活動を守るために情報セキュリティリスクに備える

事業活動に重大な影響を及ぼすリスクのひとつに、情報セキュリティリスクがあります。当社グループが保有する機密情報や個人情報などが破壊・改ざんされ、また外部に漏洩すれば、当社グループおよび関係者の方々に大きな損失をもたらします。こうしたリスクに備えて、「情報管理委員会」を設置し、情報セキュリティに関するリスクの低減に取り組んでいます。

オイル流出を想定し、防災訓練を実施

毎年実施している防災訓練では、さまざまな災害を想定し、迅速で適切な対処による被害の低減に備え訓練しています。

2016年11月に筑波事業所で実施した防災訓練では、オイル流出が発生した場合を想定し、オイル吸着マットによる対処の訓練を行いました。



オイル吸着マット訓練(筑波事業所)

コンプライアンス教育を継続的に実施

当社は、役員および全社員が、コンプライアンスを深く理解し、実践できるよう、継続的な啓発活動およびコンプライアンス教育を実施しています。

毎年、全社員を対象にして、コンプライアンスに関わるさまざまなモデルケースを取り上げたeラーニングを実施しています。各ケースの問題点について解説し、適切な行動がとれるように工夫しています。また、毎月「RISOコンプライアンス便り」を発行し、イラストを交えたわかりやすい事例で、コンプライアンスを身近なこととして考えるきっかけを提供しています。



RISOコンプライアンス便り

法規制の遵守状況

2016年度の当社の法規制および法規類の監視・測定、遵守評価の結果、全て遵守していることを確認しました。行政機関から罰金や行政指導は受けておらず、また地域社会より環境に関わる苦情も受けていません。

COLUMN 「平成28年度プライバシーマーク制度貢献事業者」表彰

当社は2004年3月より、プライバシーマークの付与を受け、個人情報保護レベルの維持・向上に努めています。2016年には、7回目の付与適格決定を受け、また、同制度の普及推進への貢献が認められ、プライバシー

マーク制度貢献事業者として表彰されました。情報漏洩リスクが目目される中で、個人情報を含めた情報漏洩を防ぐため、不正アクセスの防止などのセキュリティ対策に積極的に取り組んでいきます。



## 独自のプリントソリューションを世界の皆様へ

理想科学は、生産・販売のグローバルネットワークを構築。

世界180以上の国や地域で、高機能インクジェット技術・デジタル孔版印刷技術を通じて、お客様に満足いただける製品・サービスを追求しています。

### 会社概要 (2017年3月31日現在)

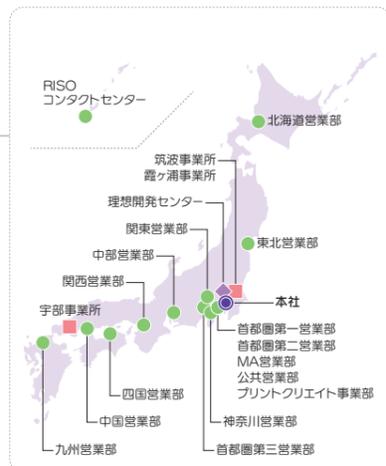
社名	理想科学工業株式会社 (RISO KAGAKU CORPORATION)	資本金	14,114,985,384円
創業	1946年(昭和21年)9月2日	従業員数	3,604名(グループ全体)
会社設立	1955年(昭和30年)1月25日	連結子会社	28社(国内2社、海外26社)
本社	東京都港区芝五丁目34番7号 田町センタービル		

### 事業拠点 (2017年7月1日現在)

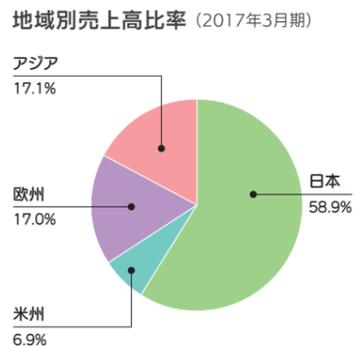
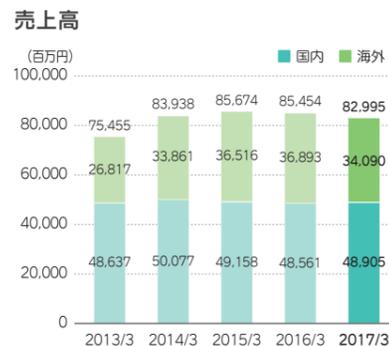
海外 ▲販売子会社 ▲製造子会社



国内 ■製造部門 ◆開発部門 ●営業部門



### 業績ハイライト(連結)



### 理想科学環境活動のあゆみ

- 1992 環境委員会発足  
インクボトル回収、サーマルリサイクルを開始
- 1997 インクボトル再生樹脂を活用した製品の生産開始
- 1999 「リソグラフ」のリサイクルを開始
- 2000 筑波事業所ISO14001認証を取得
- 2001 宇部事業所ISO14001認証を取得  
大豆油インク「RISO SOYインク」を発売
- 2004 「環境報告書」を発行
- 2005 「リソグラフ」でエコマークを取得
- 2006 国内事業所の全社ISO14001統合認証を取得
- 2007 「リソグラフ」が国際エネルギースタープログラムに適合
- 2008 「オルフィス」がエコマークを取得、国際エネルギースタープログラムに適合  
「環境経営報告書」英語版を発行
- 2012 「オルフィス」梱包材のリターナブル輸送を開始
- 2014 「オルフィスEXシリーズ」が平成25年度省エネ大賞を受賞
- 2015 「リソグラフ」でEPEAT登録
- 2016 米ぬか油を使った孔版用インク「ライスインク」を発売  
「オルフィス」がブルーエンジェル認定を取得
- 2017 「オルフィスFWシリーズ」がエコマークアワード2016 プロダクト・オブ・ザ・イヤーを受賞

### 主要製品



#### 高速カラープリンター 「オルフィス」

多枚数のカラードキュメントを高速かつ低ランニングコストでプリントできる、ビジネス用途のインクジェットプリンターです。



#### デジタル印刷機 「リソグラフ」

孔版印刷の原理に理想科学独自の技術を融合させた高速デジタル印刷機です。1原稿あたりの出力枚数が増えるほど、プリント単価が下がります。



#### デジタルスクリーン製版機 「ゴッコプロ」

水や薬品を使用しない「完全ドライ製版方式」のデジタルスクリーン製版機。プリンター感覚で、手軽に高解像度・高精度な製版ができます。

理想科学は、2004年に「環境報告書」を発行し、以降、当社の環境保全活動についてご報告してまいりました。2006年からはタイトルを「環境経営報告書」と変更し、環境や社会とのかかわりが経営にどのように反映されているかを、わかりやすくお伝えしています。本冊子版では2016年度に行った活動成果を中心に簡潔にまとめることで、わかりやすい報告をめざしました。

孔版印刷用インクとしては世界初となる国産米ぬかを使用したインクの発売にあわせて、本冊子版の印刷にもライスインキを使用し、環境に配慮しています。

本冊子版では掲載できなかった情報および過去から掲載している情報については、Webサイト (<http://www.riso.co.jp/>) で紹介しています。当社の事業活動をより詳細に報告するための「データブック」もWebサイトに掲載しています。

● 報告対象範囲

国内については、理想科学工業株式会社および理想沖縄株式会社の全事業所ならびに全営業拠点を報告の対象範囲としています。海外については、理想科学グループの生産拠点を環境負荷データの対象範囲とし、非生産事業所の電力、燃料(社有車燃料を含む)、水の使用量についても一部対象範囲としています。なお、データ集計範囲が異なる場合がありますので、各データに記載の集計範囲をご覧ください。

● 冊子とWebサイト

理想科学は、環境経営、事業活動に関するより詳しい情報をWebサイトに掲載しています。

環境経営報告書

[http://www.riso.co.jp/eco\\_report/](http://www.riso.co.jp/eco_report/)



環境経営報告書 (本書)  
本冊子をPDFデータで掲載しています。

環境経営報告書 (データブック)

- 環境関連データ
- 環境会計
- 主要事業所の環境データ
- 社会関連データ
- 環境報告ガイドライン対照表



理想科学Webサイト

<http://www.riso.co.jp/>

製品情報のほか、理想科学からのお知らせなど最新情報を提供しています。



● 企業情報

- ごあいさつ
- 会社概要
- マネジメント
- 事業拠点一覧
- あゆみ
- 採用情報
- 株主・投資家情報

● 環境への取り組み

- 環境保全のための理想科学の基本方針
- 環境保全に向けた取り組みと実績
- 製品の環境対応
- 環境経営報告書

● 社会とのかかわり

- お客様とのかかわり
- サプライヤーとのかかわり
- 株主・投資家とのかかわり
- 地域社会とのかかわり
- 社員とのかかわり
- 一般事業主行動計画
- 経営体制

その他の情報開示・コミュニケーションツール



● 会社案内

- コーポレートガバナンスに関する報告書
- 決算短信
- 有価証券報告書/内部統制報告書

広報誌「理想の詩」



コミュニケーションをテーマにさまざまな情報をお届けしています。

- 広報誌の購読について  
Webサイトの申し込みフォームまたはハガキで受け付けています。

理想科学は報告書の信頼性および客観性を高めるために、報告内容について第三者からご意見をいただき、そのご意見を報告書の制作に反映しています。本年度も昨年までと同様に、テュフ・ラインランド・ジャパン株式会社による第三者検証審査を受けました。今後も、報告内容の正確さ、わかりやすさを追求するとともに、開示情報の充実に努めていきます。

「理想科学工業 環境経営報告書 2017」第三者審査報告書



理想科学工業 株式会社  
代表取締役社長 羽山 明 殿

2017年7月18日  
テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社  
代表取締役社長 トビアス・シュヴァインフルター

1. 審査の範囲及び目的並びに対象、審査の手続き、結論

テュフ・ラインランド・ジャパン 株式会社(以下当審査機関という)は、理想科学工業 株式会社(以下、組織と言う)が作成した『理想科学工業 環境経営報告書2017』及び『WEB掲載の環境データ』に関して、

- 環境報告及び環境パフォーマンス、環境会計に関する情報にて、算出、集計方法の合理性と数値の信頼性及び、記載内容の妥当性
- 環境報告にて、重要な情報が洩れなく開示されているか

について、独立した第三者機関の立場から審査を行いました。審査目的は、その結果を報告し結論を述べることです。

なお、審査基準として、環境省 環境報告ガイドライン及び環境報告書作成基準、GRIガイドライン、を参考としていますが、ガイドラインへの準拠性を認証するものではありません。

審査手続きを計画通りに実施し、審査の過程で要求した是正処置が適切に実施されることを約束された結果、当審査機関は、『理想科学工業 環境経営報告書2017』及び『WEB掲載の環境データ』が、一般に公正妥当と認められる環境報告書作成ガイドラインの一般的報告原則に照らして、正確に数値算出されていると結論致します。

2. 審査総評

(財)日本環境協会が主催する「エコマークアワード2016」において、A3対応の高速カラープリンター「ORPHIS FWシリーズ」が「プロダクト・オブ・ザ・イヤー」を受賞されました。同賞では、特に環境性能や先進性、環境に配慮したデザインなどに優れた商品が表彰され、2015-2016年度に認定された全てのエコマーク認定商品の中から選出されました。

インクカートリッジ及び機器本体の回収・リサイクル等を推進し、国際エネルギースタープログラムの標準消費電力量の基準値を大幅にクリアすると共に、高速機では適合が困難とされていたVOC(揮発性有機化合物)などの放散に関する基準値をクリアしました。製品を使用する段階のオフィス環境に配慮したユーザー本位の姿勢が結実し、環境性能を磨くことで製品価値を大きく向上させ差別化した好例です。

さらに、影響力が大きいブルーエンジェル(ドイツの環境ラベル)との相互認証制度が適用された最初のエコマーク商品であり、国際的な展開を見据えた高い基本性能と環境性能の両立は好意的に受け止められるでしょう。

【環境マネジメント関連】

まず、環境データの正確性については年々改善がみられます。但し今回も一部不正確なデータが残っていましたが、これらは修正済みですので報告書及びWEBの開示データは十分信頼できるものと評価します。今後は、更に改善の余地がありますが、改善すべきポイントは把握できましたので今後活かされるものと期待しています。

次に、メーカーとしての最大の使命は、環境に最大限の配慮をした製品をマーケットに供給して貢献することです。例えば、省エネルギー・省資源・脱有害化学物質等をテーマとして鋭意取り組まれていることは成果として確認するとともに高く評価します。今後は、PDCAを回して、まずは有言して取り組まれることが涵養でしょう。

もう一つ付け加えますと、環境負荷の低減について、例えば、CO<sub>2</sub>排出量の削減についても鋭意取り組まれていることは確認できました。生産量が増加する場合は、せめて原単位の改善を目指し、生産量が減少する場合は、総量を抑制することをまずは有言してそれに向かって取り組んでいくという環境経営に留意することが望まれます。

御社の環境マネジメントは、良いパフォーマンスを結果として達成されていることが確認できましたので、より高いレベルの目標を設定されて取り組まれば一層素晴らしい成果が期待できるでしょう。

【社会的な取り組み関連】

2015年及び2016年におけるCOP(国連気候変動枠組条約締約国会議)を2年連続で高速大量印刷と高い環境性能で支えています。世界市場で存在感を示す際にシェア争いだけでなく、国内で行ってきた地域に根差し、製品特性を活かした社会貢献と同様に、世界や進出地域が抱える問題の解決に当事者意識を持って直接参画し、理想ブランドらしい誠実な貢献を進めていくことを期待します。

【環境会計関連】

省エネ投資に代表される取り組みは、コスト構造の改善に寄与することが多く、エネルギー需給状況に左右されない企業体質になるためにも、每期一定以上のエネルギー効率改善投資を実現することが望ましいです。設備の定期更新において省エネに配慮した意思決定が行われていますが、過去2か年は削減傾向を決定付けるような省エネ投資は目立たず、2016年度で挽回するほどには至っていません。削減効果の平準化のためにもコンスタントな省エネ投資が望まれます。

以上

審査報告書全文は、Webサイト上に掲載しています。